

編集長からのメッセージ

最初のウェブ・ニューズレターによこそ！

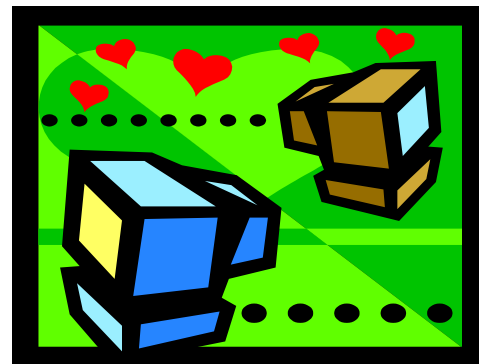
私はインターネットの掲示板をよく閲覧するのだが、特に掲示板の投稿者に対する規則に興味を持っている。いくつかの掲示板はそのような規則は何もないと言っているが、大部分は「人々はあなたの顔を見ることができないので、あなたが皮肉を言おうとしているのか、友好的にあろうとしているのか分からないということを覚えておきましょう」などという規則をもっている。掲示板で起こっている論争の数から判断すると、このようなガイドラインはあまり効果がないようだ。

最近、Television Without Pity という、若い人たちがあてもなくアメリカのテレビについて語っているウェブサイトのフォーラムを見ていて、モデレータが掲示板で“uh”とか“um”という書き込みを禁じていることに気がついた。その理由は、これらの言葉は語用論的目的のためにのみ使用されているからというものだ(確かに、タイプしているときには、このようにつなぎ言葉は必要ないのだから、理にかなっていると見えるが)。“uh”や“um”はスピーチの中で「ヘッジ」として使うこともできるが、掲示板ではこれらの言葉は投稿者が何か不愉快なこと(Television Without Pityのモデレータによれば「鼻持ちならないこと」だそうだ)を言おうとしているサインとしてしか使用されていないようだ。

あざけりのない掲示板にしようという目的は果たされなかったようだが、この規則はとても面白く、目的を持たない若い人たちがこの規則はすぐに理解したようだ。皆さんがご覧になる掲示板はどれも「これは失礼だ！」とか「違う、そうじゃない！」という表現で要約できるようなスレッドでいっぱいだ。以前に比べ、人々は何が礼儀正しい話し方なのかということに注意するようになっている。私たちの母親が教えてくれたような、善意である限りは礼儀正し

いのだ、という規則は掲示板から誰かを追放すべきかどうか決める場合には役に立たない。結果として、人々は語用論的な特徴というものにより敏感になってきているのかもしれない。しかし、思慮深く、完璧に礼儀正しい掲示板がすぐにできることを期待するのは難しいようだ。

Anne McLellan Howard
高橋良子訳



目次

編集長からのメッセージ	1
語用論部会からのお知らせ	2
ピープル ウオッチ	3
ジャネットしばもとスミス氏とのインタビュー	
ジャーナル ウオッチ	7
特集記事 (Kathi Emori執筆)	8

「語用論事情」を購読するには

JALT 会員: 1500 yen
(部会会費を含む)

非JALT 会員: 2500 yen
(この場合購読のみとなります)

特集記事の日本語訳ならびに、PM25の編集アシスタントを担当して下さった小原麻友美氏に感謝したい。